

平成 29 年 2 月 27 日

長岡市教育委員会（臨時会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 29 年 2 月 27 日 (月曜日)

午後 4 時から午後 5 時まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

教育長 高橋 譲 委 員 鷲尾 達雄 委 員 羽賀 友信
委 員 青柳 由美子 委 員 大久保 真紀

4 職務のため出席した者

教育部長	若月 和浩	子ども未来部長	波多 文子
教育部次長	金澤 俊道	教育総務課長	武樋 正隆
学校教育課長	竹内 正浩	学校教育課主幹兼管理指導主事	宮 宏之
学校教育課主幹兼管理指導主事	高橋 和久	学校教育課主幹兼管理指導主事	柳沢 学

5 事務のため出席した者

学校教育課企画推進係指導主事	岩田 孝志	学校教育課企画推進係指導主事	古川 真哉
学校教育課企画推進係指導主事	松本 浩嗣	学校教育課教育研究室指導主事	新澤 美和子
学校教育課学校支援係指導主事	淡路 弘幸	学校教育課特別支援係指導主事	佐々木 裕一
学校教育課教育研究室主査兼指導主事	関根 幸子	学校教育課庶務係主事	濱 悠子

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第5号	校長、教頭の人事異動の内申について

7 会議の経過

(高橋教育長) これより教育委員会2月臨時会を開会する。

◇日程第1 会議録署名委員について

(高橋教育長) 日程第1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第19条第2項の規定により、鷲尾委員及び大久保委員を指名する。

◇日程第2 議案第5号 校長、教頭の人事異動の内申について

(高橋教育長) 日程第2 議案第5号 校長、教頭の人事異動の内申について を議題とする。これについては公表前であるので、非公開が適当ではないか。他の委員の方々はいかがか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) では、非公開とする。

————— 会議規則第20条第2項の規定により記録中止 —————

(高橋教育長) 以上をもって、本日の議案の審議は終了する。

(高橋教育長) 次に協議報告事項に入る。平成28年度 長岡市学校教育の共通実践事項の実践状況について 事務局の説明を求める。

(古川学校教育課指導主事) 実践状況を説明する前に、「長岡市学校教育の共通実践

事項」を作成した経緯を改めて説明する。この共通実践事項は、今まで「長岡市学校教育の努力点」として各学校に配っていたものを大幅に見直したものである。長岡市は平成 28 年度から新教育委員会制度に移行し、市長と教育委員による総合教育会議において長岡市の教育大綱を策定した。この共通実践事項はこの教育大綱に沿った形で学校教育の指針を見直したものである。今までよりも具体的な内容を学校に示している。学校はこの共通実践事項に基づき、各学校の特色を生かしながら 1 年間教育活動に取り組んでいる。今年度は初年度であることから、共通実践事項の実践状況について全教職員を対象としたアンケートを実施したものである。集計結果と分析結果については、項目毎に担当の指導主事が説明する。

(新澤学校教育課指導主事) 最初に「ふるさと学習」について説明する。全ての学校が地域の実状に合わせてふるさとを活用した学習を行っている。平和教育や防災教育なども着実にやっている。しかし、「あまり実践できなかった」「実践できなかった」と回答した教職員が 3 割いる。これは、ながおか学を 5 年生にしか配付していないことから、低・中学年の担任などの評価が低いことが要因である。また、平和教育や防災教育についても、該当する学年以外の教職員の評価が低くなっている。そのため、次年度は教職員にもながおか学をしっかりと周知し、さらに、平和教育と防災教育は学年に応じて意識を高める取組を進めていきたい。

(淡路学校教育課指導主事) 「心やすらぐ学校」について説明する。肯定的な評価が 9 割を超えていることから、十分に実践できていると考えている。しかし、見えていないいじめや困っている子どもがいるということと、一つの出来事に対して学校全体で取り組むことを前提として、全教職員がアンテナの感度を上げながら、子どもに寄り添った対話を重ねていくことが重要である。次年度も風通しのいい学校を作っていきたい。

(松本学校教育課指導主事) 「道徳教育・人権教育」について説明する。道徳はまだ教科になっていないため、完全実施に向けた職員研修などに取り組んでいるところである。また、人権教育については人権教育強調週間があるため、全ての学校で取り組んでいる。しかし、学級担任を持っていない教職員の評価が低いいため、次年度も繰り返し着実な取組を継続する必要がある。

(佐々木学校教育課指導主事) 「一人ひとりを大切した支援」について説明する。学

校教育全体の中で一人ひとりが活躍することができる取組を進めている。また、特別な支援を要する児童生徒については、保護者と本人の合意形成に基づいた支援を進めている。そして、特別支援学級と連携ができる校内体制とすこやかファイルを活用した切れ目のない支援体制の整備を進めている。次年度は、各学校の実践成果をもとに校内や関係機関等との連携を深め、個を活かす教育と特別支援教育の充実のため、さらなる支援体制の構築に努める必要がある。

(岩田学校教育課指導主事)「やる気や意欲の向上」について説明する。肯定的な評価が9割を超えている。各学校が学校と地域の特色を活かしたその学校らしい体験活動や地域貢献活動を行っている。また、多くの学校が学校・子どもかがやき塾などの教育委員会の夢づくり教育事業を活用している。次年度は、体験活動の目的を各学校の課題を基に明確にし、学校全体として系統的に位置付けていきたい。

(関根学校教育課指導主事)「確かな学び」について説明する。肯定的な評価が9割を超えている。学校からは「教職員の授業改善への取組意識が高まった」という意見があった。実践が積み重なって、思考力と表現力の向上が見られる一方で、振り返りが徹底されていないという課題がある。次年度は、自ら学び、他とのかかわり合いを通して学びを深めていく授業を実践していくことと、そして、子ども自身が書くことで学びを振り返る場面を授業等に適切に位置付けていきたい。

(古川学校教育課指導主事)「幼保・小・中の連携」について説明する。肯定的な評価が8割を超えている。幼保・小・中学校間の連携を着実に進めて行く学区が多く、特に中学校区での小・中学校の連携による多様な取組が子ども達の学習習慣と生活習慣の向上に結びついている。しかし、幼保・小学校間の連携で課題が残る学区がある。そして、授業参観などの行事への参加者が固定し、更なる工夫や改善が必要な学区もある。次年度は、連絡協議会など、学区の実態に応じた工夫を図り、子どもに身に付けさせたい力を互いに共有し、連携を推進していく。そして、長岡市独自の幼保・小・中学校間の連携に加えて、これから欠かすことができない地域との連携も充実させることで子ども達の健やかな成長を促進していく。この集計結果と本定例会での意見を踏まえて、平成29年度の共通実践事項を作成し、3月定例会において議案として提案したい。今年度に大幅に見直したため、来年度も大幅に見直すと学校が混乱する可能性があるため、内容は今年度のものを踏襲し、調査で見

えてきた課題への対応として、解説部分を充実させることを考えている。

(高橋教育長) 質疑はないか。

(高橋教育長) この結果は全教職員にどのような形でフィードバックするのか。

(古川学校教育課) 本日提示した資料を全学校に配る。また、秋に全学校を訪問する時があるので、その際に指導する。

(高橋教育長) 1人ひとりはもちろんだが、自分の学校の弱い部分を校長や教頭が意識しながら年間の計画に活かしてほしい。

(鷲尾委員) 3点質問する。まず、ながおか学について、具体的な改善策はどのように考えているか。次に、いじめの問題について、チームとしてどのような対応を考えているか。そして、道徳教育について、従来型の授業からどのような改善を考えているのか。

(新澤学校教育課指導主事) ながおか学については、全学校の図書館に何冊か配付しているがより多くの教職員が手に取れるように増し刷りを考えている。また、教育センターに研修に来た教職員に長岡市を紹介し、施設を見学することも考えている。

(淡路学校教育課指導主事) いじめへのチームとしての対応について説明する。既に各学校はチームとして対応している。相手が苦痛を感じたら全ていじめだということのを改めて強調し、軽微ないじめから重大なものまで教職員が感度を上げて認知してもらい、どんなに小さなことでも教育委員会に報告してもらうことを検討している。

(高橋教育長) 学校は、いじめの発見は担任だ、担当ではないという考えではなく、学校全体が一つのチームであるという考えのもとで対応している。そして、教育委員会は一緒になって解決するというスタンスであるということを学校に伝えていきたい。

(羽賀委員) 子ども自身が直接教育委員会に相談できるシステムあるのか。

(淡路学校教育課指導主事) 学校教育課に子どもサポートコールがある。年度初めに全学校、全保護者に周知している。

(波多子ども未来部長) 青少年育成センターにも相談窓口があり、メールでも相談できる。

(鷲尾委員) 子どもはメールではなくLINEをよく使う。LINEでは相談できな

いのか。

(波多子ども未来部長) LINEなどのSNSの活用については研究しているところである。LINEは一見閉ざされた環境のように見えるが、運営会社は書き込まれた内容を全て見るができるため、市のセキュリティ的に課題がある。

(大久保委員) LINEは間違えて送ると問題が広くなってしまう恐れがある。

(波多子ども未来部長) LINEでこちらからのメッセージは出せるかもしれないので、これからも研究していきたい。

(松本学校教育課指導主事) 道徳教育について説明する。教科としての道徳は、考える道徳、議論する道徳という方向性が出ているため、道徳教育担当の教職員を中心に各学校でどのような授業ができるか検討しているところである。

(青柳委員) すこやかファイルの活用が学校で差が出ている。活動できない理由は何か。ファイルを見直す必要があるのか。

(佐々木学校教育課指導主事) 年齢が進むと活用が止まる傾向があるため、すこやかファイルの意義と活用方法をより浸透させる必要がある。

(高橋教育長) 他に報告事項はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 以上で本日の臨時会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員